

第4次中期経営計画 事業実施計画 令和4年度事業評価

第4次中期経営計画【令和3～5年度】において取り組む事業のうち、主な事業の令和4年度の事業評価は以下の通り。

1. 公益目的事業

①専門性・独自性の高い事業展開と事業の質の向上

目標	緑化普及啓発事業や公園緑地運営事業に関する実績と経験を踏まえ、独自性と専門性を活かした存在感と優位性を高める事業を展開する。 また、利用者アンケートにより意見の把握に努めるとともに、HPやSNS等による豊富な情報発信を活用しながら利用者の要望を事業に反映していく。
総括	【取組状況】 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響による施設の休止・休館もなく、中止していた事業やイベント等の多くが再開できた。 野草園など各施設で特色を生かした自然観察会やガイドウォークなどのイベントを開催するとともに、市民センター、町内会、小学校などで花と緑の出張出張講座の実施や職場体験として中学生を受け入れるなど、都市緑化の推進に取り組んだ。 各施設において利用者アンケートを実施し、利用者の意見、要望の把握に努め、湯元公園でテニスラケットのレンタルを開始するなど、事業運営に反映した。 また、情報誌の発行、協会ホームページやブログによるイベント情報等の発信、YouTubeによる各施設の自主事業や花壇講習会の情報の配信など、様々なツールを活用し、施設や自然、緑に関する情報発信を行った。 【今後の対応】 引き続き、出張出張講座やガイドウォーク等の協会がもつ独自性、専門性を活かした事業を着実に展開するとともに、利用者の意見等の把握に努め事業に反映させる。 また、様々な広報媒体を活用し、緑に関する情報を積極的に発信する。

②新たな管理形態への戦略的な対応

目標	指定管理における自主事業などをさらに工夫して積極的に取り組み、管理運営の信頼性の確保と利用者の拡大を図る。
総括	【取組状況】 海岸公園の一部（運動広場及びパークゴルフ場を含む）の指定管理について、プロジェクトチームを立ち上げ取り組んだ結果、令和5年度からの指定管理者として引き続き選定され、市民サービスの向上に向けたこれまでの取り組みや安定した施設運営が認められた。 公園PFIへの参入の可能性やクラウドファンディングについて検討するため、他都市の事例収集を行った。 【今後の対応】 指定管理施設の管理運営を確実にを行うとともに、令和6年度に募集される仙台スタジアムの次期指定管理者の選定に向けた準備を進める。また、公園PFIやクラウドファンディングについては、資金調達など課題もあるが、引き続き検討を進める。

③市民団体、関連企業、民間団体との連携協力

目標	緑化普及啓発や公園施設の利用促進のため、今後、市民活動団体、関連企業、地域団体等関係団体との連携をより強化し、事業を展開する。
総括	【取組状況】 新緑祭、花壇コンクールは3年ぶりの開催となり、新緑祭では多くの花や緑に関わる市民団体に出席して頂いた。花壇コンクールでも96団体の応募があり、秋に式典を開催し、各区で写真展を開催した。また、花壇づくり助成、絵画コンクール、記念樹交付事業等を実施し、市民協働による緑化活動に取り組んだ。 七北田公園では七北田公園活性化協議会や泉青年会議所が主催するイベント等に協力し、資材の提供やキッチンカーの出店など、公園利活用の向上に取り組んだ。 海岸公園では地域の関係団体と連携し育樹会を4回開催するとともに、小学生の育樹体験、高校生や社会人による除草活動、育樹サポーター養成講座の実施など、沿岸部の緑を再生する「ふるさとの杜づくり」事業の推進を支援した。 野草園では市民に親しまれている萩まつりを関連企業・団体と協働により9月に開催した。また、ボランティアガイドと連携し園内の植物等について解説・案内を行うとともに、ボランティア主催で「春の妖精を見つけよう」を4月に実施した。 全国都市緑化仙台フェアの開催に向け、仙臺緑彩館での出展や海岸公園、野草園、七北田公園など東部エリア会場や連携会場のイベント計画について、仙台市緑化フェア推進室と協議しながら、出展内容を決定し事前準備を行った。また、青葉山メイン会場での「たねダンゴ花壇づくり」の講師及びサポートスタッフとして協力した。 【今後の対応】 引き続き、各施設において、関係団体と連携しながら、緑化推進に積極的に取り組む。また、全国都市緑化仙台フェアでの連携事業の実施に向け、仙台市と情報共有を密にし、関係団体とも連携しながら、自主事業や連携会場での協力事業等を確実に実施する。

④安全・安心に向けた取り組みの推進

目標	利用者、職員の安全確保を最優先に、新型コロナウイルス感染症等に対して万全の対策を講じるとともに、消火訓練や避難訓練、AEDを使用した救命講習等に積極的に取り組む。
総括	【取組状況】 仙台市から通知された新型コロナウイルス感染症関連の情報を速やかに協会全施設に周知するとともに、各施設での感染予防対策の徹底や感染が判明した場合の迅速な対応に努めた。 各施設において、利用者の安全確保を最優先に消防訓練、災害対応訓練、シェイクアウト訓練、救命講習などを実施し、職員の安全意識の向上に取り組んだ。 【今後の対応】 引き続き、利用者、職員の安全確保を最優先に新型コロナウイルス感染症や地震災害等に対して万全の対策を講じるとともに、職員の意識向上に取り組む。

2. 収益事業

①収益率向上への取り組み強化

目標	収益向上に向けて、利用者意見はもとより、情報ネットワークを活用したイベント情報の提供など、施設のPRや情報収集の取り組みを強化する。 また、各店舗のコンセプトを明確にし、お客様のニーズに的確に対応した品揃えや快適な飲食空間の提供を図っていくとともに、冬季間の誘客についても検討する。
総括	【取組状況】 八木山動物公園内のグーグーテラス及びアフリカ園売店や野草園内のどんぐり庵では、季節に合わせた期間限定新メニューを提供し収益向上に努めた。 6月に開催した八木山動物園ふじさきDAYに合わせ、藤崎百貨店とのコラボ商品「笹かまセット」「トリッククリアファイル」などを企画し販売した。また、売店オリジナル商品「マルシェバッグ」「コルクコースター」などを製作し販売した。 七北田公園軽食喫茶（KASVICAFFE）において、緑化ホールの「イルミネーション&キャンドルナイト」（12/10～12/25）に合わせ、夜間営業を実施し、特別メニューを提供し誘客へと繋げた。 八木山動物公園の正月臨時開園時（1/2・3）に、来園お年玉企画として「新春くじ引き」（各日先着 300 本）を動物公園と共催で実施した。また、各日先着 200 名に「甘酒おふるまい」の無料サービスを行い、賑わいを創出した。 【今後の対応】 八木山動物公園は新型コロナウイルス感染症の影響による休園が無かったことから、入園者はコロナ前に戻りつつあり、事業収入も前年度に比べ増収となったが、引き続き、様々な機会を捉え、販路拡大、誘客、売り上げ増の取り組みを積極的に進める。また、冬季間の誘客施策についても効果検証を行いながら継続する。

②新たな事業の検討

目標	利用者アンケートの意見やトレンド、社会ニーズを的確に把握し、商品や新メニューの開発を積極的に進め、販路拡大のためにテイクアウトフード販売などの事業展開について調査・検討を行い、幅広く販売促進に取り組む。
総括	【取組状況】 仙台スタジアムにおいて、試合開催時に営業している売店でのキャッシュレス決済の導入に向けた環境整備を行い、2月からスマホ決済を導入した。 また、七北田公園軽食喫茶（KASVICAFFE）において「イルミネーション&キャンドルナイト」の期間、及び、森の食堂において冬期間「牛タン極まんじゅう」を、アフリカ園売店において「動物パン」を販売するなど、利用者へのサービス向上、販売促進に取り組んだ。 藤崎百貨店から福袋企画の一環として、動物公園福袋にグーグーテラスの食事券を付けることについて依頼があり実施した。その事により、藤崎百貨店の福袋広告に店舗名が掲載され、グーグーテラスをPRすることができた。 【今後の対応】 キャッシュレス決済の実績等を検証しながら、未導入店舗への導入に向けて、検討を進める。 また、販路拡大に向け、特典サービスなどについて、引き続き検討を行う。

3. 組織運営

①社会貢献等の社会的責任への対応と業務品質の向上

目標	公益財団法人としての役割を果たしていくために、協会がもつ専門性・独自性をさらに磨き、これまで培ってきた研究成果や経験などの資源を有効に活用しながら、サービス向上と社会貢献に取り組んでいく。
総括	【取組状況】 太白山自然観察の森、青葉の森緑地で行っている「動植物等調査事業」について、令和3年度の調査結果を協会ホームページにて公表した。 また、調査で得られた情報は、太白山の「自然観察情報」として随時、館内の掲示板で更新を行った。青葉の森でも、昆虫や植物調査をもとに館内展示やイベント、ガイド、ブログ等に活かし発信した。 野草園において取り組んでいる「野生サクラソウ調査事業」について、公表に向けた準備を進めた。 海岸公園において、海岸公園再生事業モニタリング調査を実施するとともにセンターハウス周辺の自然環境調査（鳥類）を実施し、その結果を事業報告書にまとめ、館内の展示コーナーで展示した。 仙台スタジアムにおいて、毎月1回、芝生の管理実績や管理計画に係るスポーツターフ定例会議（施設管理課・スタジアム・日本体育施設等）を開催し、芝生の品質向上や新たな管理手法について検討した。 【今後の対応】 引き続き、各施設において、専門的な研究や研修に取り組み、研究成果を公表するなど、情報発信を行う。

②人材育成の充実

目標	職員の能力向上と人材を育成していくために、各種講習会、研修会への参加を促し併せて資格取得などを積極的に行って、専門的な技術を向上させていく。
総括	【取組状況】 刈払い機取扱者安全衛生講習、伐木作業（チェーンソー）特別講習や公園管理運営士、キャンプインストラクター、芝草管理技術者、パークゴルフ指導員、火葬場管理者等の講習会を受講し、職員の資格取得、更新に努めた。 その外、仙台市や関係団体等が主催する研修を受講し、職員の能力向上、事務処理のスキルアップに努めた。 【今後の対応】 引き続き、各種講習会、研修会に参加し、資格取得などを積極的に行い、専門的な技術の向上、事務処理のスキルアップに取り組む。

③コスト縮減の徹底

目標	経費の見直しや業務のプロセスなど、あらゆる場面においてコスト縮減に取り組み、職員に浸透するような検討を行いながら、業務の効率化につなげていく。
総括	【取組状況】 仙台スタジアム及び葛岡斎場では、光熱水費の節減のため、自主事業計画に基づき施設内の照明をＬＥＤに更新した。 葛岡斎場の火葬炉設備について、当協会とJVを組んでいる太陽築炉工業(株)と、指定管理期間（令和４年度から令和８年度）の５年間に実施する「葛岡斎場火葬炉設備修繕計画表」を作成し、令和４年度は主焼炉セラミックの貼り替えを１０炉、炉内台車キャスタブルの貼り替えを１２炉行った。 各施設で電気、ガス、水道などの使用量の縮減に加え、事務用品も含めた資材の在庫管理台帳を作成するなど在庫管理に心掛け、コスト削減を徹底した。また、イベントも含めた各業務においても効率化を図り、経費削減に努めた。 【今後の対応】 計画的な修繕を実施するなど、施設の保全に仙台市と連携し取り組むとともに、経費の見直しや業務のプロセスなど、あらゆる場面において、職員のコスト意識を高めながら、コスト縮減に取り組み、業務の効率化を進める。